# 異学年交流が人間関係や学習意欲に及ぼす影響　第４報
## ～解剖生理グループワークによる協同学習～

○百々　直子　　福嶌　松代　　江﨑　智子　　関西看護専門学校　津田荘

キーワード：看護学生　異学年交流　人間関係　学習意欲　解剖生理

【目的】異学年交流が「人間関係や学習意欲」に及ぼす影響を明らかにする。

【方法】

１．デザイン:量的･質的研究

２．時期:前期 2019 年 6･7 月に 1 回 90 分での実施。
1･2 年生の解剖生理グループワーク(以下 GW)をワールド･カフェ方式で 2 学年交流での実施。後期 2019 年 10 月実施の解剖生理 GW 発表時の 1･2 年生と 1･3 年生の 3 学年での交流。

３．対象:1 年生 99 名、2 年生 96 名、3 学年 88 名。

４．方法:無記名自記式質問紙調査（自由記載を含む)。分析方法:異学年交流実施前後のアンケートの 4 段階評価を$\chi^2$検定及び t 検定で分析し、自由記載については計量テキスト分析を行った。
倫理的配慮は研究趣旨を説明し、匿名性質問紙調査の回収をもって同意とし関西看護専門学校倫理委員の承認を得た。

【結果】異学年交流の前後のアンケート結果では「人間関係」が 1 年生は〈前 3.0 後 3.6〉2 年生は〈前 2.8 後 3.5〉であり、「学習する意味の理解」は 1 年生が〈前 3.2 後 3.6〉2 年生は〈前 3.0 後 3.4〉と $p<0.01$ と有意差を認めた。学習意欲の変化では 1 年生の平均 3.5、2 年生平均 3.2 と 1 年生の方がより「学習意欲の変化」に有意差を認めた。解剖生理 GW 発表後の 3 学年での交流の質問紙調査では「新たな発見」「学習意欲」の項目で 1 年生の平均が高く、$p<0.01$ と有意差を認めた。3 学年による計量テキスト分析の結果では、１年生が「聞ける」「出来る」、2 年生は「復習」「役立つ」、3 年生は「実習」「頑張る」と特徴があり、3 学年共通の頻出語は「分かる」であった。

【考察】学生によっては「教員が教えるよりも、自分たちと同じ境遇にある身近な先輩の成功体験や学習方略を学ぶことで、不安が軽減し自己効力感を高める」（谷村ら,2016）と報告している。今回、意図的に夏休み前に異学年交流を図れたことは、入学後の人間関係作りや学習意欲を向上させるのに効果的であった。更に、解剖生理 GW の 1 年生の発表を 2･3 年生が聞いたことにより、2・3 年生は学習や実習の意欲向上に刺激を受け、また 1 年生は安心して「聞ける」関係性で「出来る」「分かる」体験が学習意欲に繋がったと考える。結論として、異学年交流は「人間関係や学習意欲」に影響を与え、特に 1 年生にとって異学年交流は効果的であることが示唆された。